

慶應義塾の 外国語教育

今、外国語教育が養うべき能力とは

「発信の外国語」から「共生の外国語」へ

英語への一極集中が生んだ日本人のモノリンガル化。意思疎通が英語でうまくいかない場合はどうなるのか？ 社会のリーダーには、「開かれた心」と複言語・複文化能力が求められる。

英語学習の加熱と外国語能力の衰退

中国や韓国では英語学習熱がとどまるところを知りません。日本もそれに負けじと文部科学省が「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」をはじめとした計画を発表し、それがオーラル・コミュニケーションの重視という形で英語の指導要領にも反映されるようになりました。その結果、英語ではそれなりの成果が出てきているように思われます。

一方で、将来この国のリーダーとなるべき大学卒業生の総合的な外国語能力は、この20年間で必ずしも向上していないどころか、ある意味で低下しているのではないかと思われまます。それは、彼らが複数の言語・文化を身につける機会を失い、世界の多様性に対峙する能力がなくなっているのではないかと、ということです。

二重のモノリンガル化

1991年の「大学設置基準の大綱化」以降、多くの大学・学科で第二外

国語が必修から外れ、英語への一極集中が進んだために、日本人のモノリンガル化が進んだと言えるでしょう。他言語を意識しない言語教育によって、われわれの中に日本語と英語がばらばらに育ち、さらに別の言語とも結びつくことがない。専門家はこれを「二重のモノリンガル化」と呼んで、ヨーロッパの言語政策である、一人の中に複数の言語が相互に関係しあいながら育っていく「複言語能力」の養成と対極に位置づけられます。

世界のグローバル化が進むと、異なる言語や文化を持った人々と仕事や生活の上で交わることが多くなります。事実、近年日本でも外国人を隣人に持つことは珍しくなくなりました。彼らの大多数は英語を母語とせず、また多くは英語を話さない人でもあります。彼らとのコミュニケーションに英語を使えばいいが、そうではないときはどう対処するか。その能力が今日求められているのだと思います。



経済学部 教授
外国語教育研究センター所長
境 一三二

開かれた心を養う外国語教育

一言で言うと、それは「開かれた心」です。さまざまな言語・文化に関心をもち、少しでも学ぼうという気持ちです。そして実際に学び使う。意思疎通が英語でうまくいかなかったら、片言の中国語を試してみる、それでもだめならもう一つ別のことを試すというように。そして相手も片言の日本語で何とか伝えようとする。相互にそうした態度を涵養することこそ、今日の外国語教育に求められていることではないでしょうか。そして、ことばがより良くできる人は、そうでない人たちの「仲立ち」をする。社会のリーダーとなるべき人には、こうした意味での複言語・複文化能力が求められているのではないかと思います。

先進文化を学ぶための「受容の外国語」から、利益主張のための「発信の外国語」への転換が20年前だったとするならば、今日必要なのは「共生の外国語」への転換ではないでしょうか。

学ぶ機会の少ない言語や歴史的言語を学ぶ

言語文化研究所の特殊講座では、日頃接することの少ない言語の授業が数多く用意され、義塾の言語教育の幅広さと、文化にも踏み込む学びの奥深さを実感できます。

言語文化研究所は、世界の諸言語、各時代各地域の文化と思想、そして言語学・言語理論の研究を目的とする義塾の機関です。1942年に設立された語学研究所を前身とし、70年にわたる言語・文化研究の拠点として、独自の地位を占めています。

この言語文化研究所が塾生を対象に開講しているのが「特殊講座」です。アラビア語、ヴェトナム語、ペルシア語、タイ語、トルコ語、カンボジア語などの一般の学部レベルではなじみの薄い言語や、サンスクリット、ヘブル語、古代エジプト語、アッカド語などの歴史的な言語を学ぶことができます。

専任所員の野元晋教授は、「アラビア語基礎Ⅰ・Ⅱ」と「アラビア語文献講読Ⅰ・Ⅱ」の講座を担当しています。

「アラビア語の話者数は、中国語、スペイン語、英語などに次々と考えられ、2億人以上が使っています。西洋言語に比べると縁遠く感じますが、一



般の塾生にとっても、アラビア語を習得する意味は大きいと思います。言葉だけではなく、欧米とも中国とも異なる、イスラームをベースにした文化と世界観を同時に学ぶことができます」

研究機関の講座らしく、まずは文法をきちんと学ぶことに重点が置かれています。たとえば文献講読の授業では、12世紀のイスラームの哲学書をテキストに、ギリシア哲学がイスラーム社会でどう咀嚼、吸収されたのかを探りながら、じっくりと読み進められます。

言語に興味があり、英仏伊語も学んだという鈴木康太君（経済学部・2013年3月卒業）は「アラビア語は、文字から西洋のアルファベット系言語とはまったく違い、文法の論理も異なっています。こんな言語の成り立ち方があるのかと驚きました。少人数



授業は親密な中にも緊張感が漂い、内容の濃い時間です」と話します。

アラビア語の基礎講座履修者は年によって20〜40名ほど。文献講読は5〜6名です。アラビア語に興味を持ち、日吉の外国語教育研究センターや各キャンパスで基礎授業を受けた後に履修する塾生がほとんどです。

特殊講座で学んだことを仕事に活かしたり、研究者になる人もいますが、純粹に「未知の言語を学ぶこと」を樂しんでいる塾生もたくさんいます。



経済学部
（2013年3月卒業）
鈴木康太君



言語文化研究所
教授
野元 晋

学部を超えて、ロシア語を学ぶ塾生が集合



2012年12月15日に日吉キャンパス来賓舎のシンポジウムスペースで、3回目のロシア語フェスタが開催されました。主催は外国語教育研究センターで、熊野谷葉子法学部専任講師は、「言語は使う機会、話す機会が多いほど覚えるものです

が、残念ながら、英語以外の外国語は、留学や旅行以外に、使う機会が多くありません。そこで、フェスタでは、歌やお芝居などでロシア語を人前で使ってみることに、ロシア語を学ぶ塾生と既習者生と教員とが縦横に交流する場をつくることを目的としています」と話します。

運営は法学部のロシア語インテンシブコース（2年）が担当し、その運営メンバーのひとり、中島正暢君は、「ロシア語を学ぶ人は、ドイツ語やフランス語、中国語などに比べて多くはありませんが、ロシア語クイズやカチューシヤの合唱を通じて打ち解け、クラスや学部を超えて、ロシア語を学ぶ仲間意識が生まれたと思います」

中島君のロシア語を学ぶきっかけは、オリンピックのフィギュアスケートをソチで観戦したいと思ったこと。今はロシア語のWebサイトで大会の生中継を見たり、プルシエンコ選手などのツイッターを読んだりしています。

「文法を覚えるのは大変でしたが、濁音の多いロシア語の音・語感に魅力を感じました。将来は商社でロシアの天然ガスビジネスに携わりたいと考えているので、語学力は就職に有利でしょう」

熊野谷専任講師がロシア語を学んだきっかけは、ペレストロイカ以降の変動するソ連社会を見てみたいと思ったことだそうです。

法学部に加え、新たに文学部、理工学部のロシア語履修生も参加した今回のフェスタでは、学部を超えた交流も始まり、留学経験者や卒業生、ロシア語の塾内外の関係者なども駆けつけ、約90名が参加する盛況ぶりでした。

「きっかけは政治でも、文学・民話・音楽・スポーツでも、なんでもいいのです。ロシアは西欧とはまた異なる、独特の魅力を持つ国ですから、ぜひロシア語を学んで、ロシアのことをより知ってほしいと思います」



ロシアに関するクイズに参加（上）。
法学部1年インテンシブコース生によるロシア民話「かぶ」の劇（右）。おばあさん、孫娘、犬や猫が一列になっても「Тянут-потянут, вытянуть не могут」（引っぱっても引っぱっても抜けない）

塾生の義務 外国語教育

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
الأعلى، وهو النور
بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ
بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

「きっかけは政治でも、文学・民話・音楽・スポーツでも、なんでもいいのです。ロシアは西欧とはまた異なる、独特の魅力を持つ国ですから、ぜひロシア語を学んで、ロシアのことをより知ってほしいと思います」

熊野谷専任講師がロシア語を学んだきっかけは、ペレストロイカ以降の変動するソ連社会を見てみたいと思ったことだそうです。



法学部 専任講師
熊野谷葉子



法学部法律学科3年
中島正暢君



理工学部のアーヘン工科大学夏季講座

2007年に始まったドイツのアーヘン工科大学夏季講座は、ドイツ語に加え、将来の学生の研究交流を視野に入れた体験学習（英語）もできる理工学部独自の在外研修です。

アーヘン工科大学夏季講座は、夏休みに実施する約3週間の海外研修プログラムで毎年15〜20名が参加します。また「ドイツ語・エンジニアリング在在外研修」の科目を履修申請できます。

アーヘン工科大学は、約3万人が学ぶヨーロッパ有数の工科大学であり、理工学部とは50年以上の交流があります。

昨年参加した山田貴大君（理工学部生命情報学科3年）は、「午前中はドイツ語によるドイツ文化研修、午後は英語によるエンジニアリング入門講座です。一人ひとりに、現地の学生が付いてくれるので、おしゃべりを通じて仲良くなれた上、ドイツ語と英語、両方の会話能力が向上しました。週末は、



アーヘン工科大学作成の分厚い講義資料ファイル。スケジュール（写真）ほか現地担当教員の紹介ページもある。宿泊は大学のゲストハウスや大学の用意した宿舎など、きめ細かな受け入れ体制が整っている。



みんなと野山を散策し、博物館などを回りました。今もSNSで連絡を取り合っています」と楽しそうに話します。

山田君は慶應義塾高等学校でドイツ語を学び始め、大学入学後は理工学部の授業のほかに外国語教育研究センター設置授業など合計週7コマもドイツ語を勉強しました。

「夏季講座では、心態詞という、日本語で言えば『……だよね』のような、会話で無意識に使う表現を学び、生きたドイツ語の勉強ができました」

午後のエンジニアリング講座では、工場を擁するほど充実した自動車関連の研究施設が機械工学科の学生を喜ばせたほか、化学、物理、生物学の講義も充実していました。

受入留学生

一方、受入留学生は、約1200名です。おおよその内訳は、学部生が40%、大学院生が45%で、別科・日本語研修課程や国際センターに所属する者が15%です。学部で



留学生ガイダンス(2012年9月・三田)

派遣留学生

アーヘン工科大学以外にも、さまざまな短期海外研修プログラムが慶應義塾国際センターや各学部主催で行われています。その参加者は、年間で500名近くになります。また、毎年200名を上回る学生が海外留学をしています。協定大学への一学年間大学生生活を体験する交換留学制度を利用する学生が多いほか、奨学金や私費で留学する学生もいます。

海外研修や留学を考えている学生は、自身の目的に合わせて、期間や費用などを比較検討する必要があります。情報収集には【留学説明会、留学フェア（P35参照）】も有効です。

慶應義塾の 外国語教育

「発見されたばかりのヒッグス粒子
 について、研究チームの研究者から直接
 教わったほか、最新バイオテクノロジーな
 ど興味深い授業がたくさんありました」
 将来は生物分野の研究で渡独する夢
 を持つ山田君にとって、有益な夏季講
 座となったようです。



理工学部
 生命情報学科 3年
 やまだ たかひろ
山田貴大君

好きなドイツ語は「Denke nicht so oft an das,
 was dir fehlt, sondern an das, was du hast.
 (自分に何が欠けているのかではなく、何を
 持っているのかを考えよ)」(第16代ローマ皇
 帝マルクス・アウレリウス・アントニヌス)

癒しの英語表現を学ぶ「看護医療の英語」

高い専門性と倫理観を備えた医療人を育成する看護医療学部。その教育は、看護知識・技術の習得にとどまらず、医療現場ならではの英語「コミュニケーション」にも及んでいます。

「卒業後に海外での就労や研究を希望する人だけでなく、外国人の患者さんが増えてきている日本の病院においても、看護師の英語力は重要です」。そう語るのは、看護医療学部で「看護医療の英語Ⅰ・Ⅱ」の授業を担当するトーマス・ハーディ准教授。さらに患者さんとのコミュニケーションに役立つ「癒しの英語」を身につけることが大切だと言います。

「病気や怪我をすれば誰でも不安なもの。ましてや外国でそのような状況に直面すれば、心細さはなおさら。そんな外国人の患者さんを安心させる

には、看護師が患者さんとの文化や習慣の「違い」を認識し、その上で積極的に話すことが重要です。人はそれぞれ違うということが広く理解されているアメリカでは、看護師は患者さんに話しかけ、悩みや訴えをうまく聞き出します。この癒しの会話テクニックを身につけてほしいのです」

履修生の掛川奈光子君は、日本語とは違う、英語らしい表現でのコミュニケーションが学べると言います。

「クラスは5名の少人数。各人が患者さん、医師、看護師などの役割を演じるスキット(寸劇)で授業を進める

は商学部の留学生数が最も多く、大学院では理工学研究科が最多。出身地域は、約8割がアジア、約1割が欧州です。塾生専用の寮や宿舎に暮らす留学生も多く、日本人の寮生との交流も盛んです。

こともあります。患者さんは不安でいっぱいな方や、頑固な方など千差万別。まずは傾聴することが基本ですが、患者さんの心を解きほぐすため、また医師や同僚と情報を共有するためにはどんな表現が的確か、自分で考えて英語で会話をします。表情や声のトーンも意識し、時にはジョークも入れて語りかけることがポイントです」



看護医療学部 准教授
トーマス・ハーディ



看護医療学部2年
 かけがわ なみこ
掛川奈光子君